

特集 「自治会」について考えてみよう！

自治会は、「住みよい地域にしたい」という住民の思いを実現するために、住民自らが協力して活動する集まりです。燕市内には、現在200を超える自治会があります。日ごろ、当たり前のように過ごしている暮らしの中にも、自治会の活動によって支えられていることがあります。



私たちの自治会ではこんな取り組みをしています！

自治会の活動は、自治会ごとにさまざまな取り組みがあります。住民同士の交流や、回覧板の電子化、地域の防災など、市内の3つの自治会の取り組みをご紹介します。

Case 1
子どもたちの存在が地域の絆を深める
水道町三丁目自治会

水道町三丁目は、もともとある農村集落と近年できた新興住宅地があり、約300世帯からなる自治会です。移住してくる人も多く、地域内の住民同士の繋がりをづくり出すことが自治会の課題となっていました。

この地域には、古くから受け継がれてきた神楽があります。神楽は「家内安全」への願いと、厄払いに町内の一軒一軒を回る行事です。5年前から休止状態となっていたものを復活させようと、地元奉賛会の有志が昨年の春から準備に着手。7月の披露に向けて、小学生に参加を募り、子どもたちが練習に参加することになりました。

地域の人たちが大勢集まるこの日に、自治会として何かできればと子ども会と一緒に「お楽しみ交流会」を企画。イベントは、自治会の活動拠点でもある集会所と隣接する防災倉庫のある広場で行いました。神楽の行事が終わると、交流会がスタート。「親爺バンド」の生演奏やくじ引きのほか、キッチンカーも集結しました。



- ① 神楽を披露した地域の子どもたち
- ② 「親爺バンド」をはじめ大人もイベントを盛り上げた
- ③ イベント看板制作は小池中学校総合文化部が協力



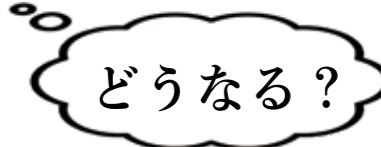
◀水道町三丁目自治会の皆さん（右から自治会長の高山廣栄さん、神楽奉賛会代表の高山雄作さん、自治会会計の平原孝典さん）

水道町三丁目自治会の皆さんにお話を伺いました！

Q. 交流会の開催で、どんな効果がありましたか？

A. 集落部と住宅街の住民が集まり、イベントの参加や片付けを通して交流が深まりました。やはり子どもたちが楽しんでくれると、大人もうれしいですね。子どもは地域の絆を深めてくれる存在です。災害時も含めて、お互いに助け合える関係を築いていければと思います。

もしも自治会の支えがなかったら



ごみステーションの管理などの環境美化をはじめ、子どもたちや高齢者の見守り、防犯灯の故障連絡、防災訓練など、自治会の活動は多岐にわたります。

住民同士の交流を深めるため、イベントや親睦会などを実施している自治会もあります。

もしも、その自治会の活動がなかったら、あなたの地域はどうなるかを想像してみましょう。

災害時に生じた個人や家族だけでは対処できない問題は、地域の人たちと助け合って対処することも必要になるかもしれません。

日ごろの活動などを通じて顔馴染みになり、非常時に助け合える関係を築くことが大切です。

地域の環境美化

ごみステーションの管理や一斉清掃などがないと、清潔で住みやすかった環境がなくなるかもしれません。



子どもや高齢者の見守り

地域の人たちと繋がりが希薄だと、地域内の見守りも難しく、暮らすにも不安がつきまとうかもしれません。



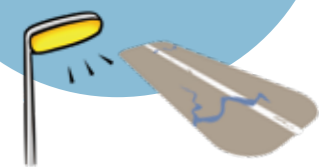
災害時の助け合い

地震や台風など災害時に頼りになるのは近所の人。自治会の活動を通して、日頃から地域で結びつきがないと、万が一のときに困るかもしれません。



地域の声を行政へ

道路の危険箇所や防犯灯の故障など、自治会から行政への要望がなかったら、住みづらい生活環境になっているかもしれません。



▶クリーンデー燕の様子